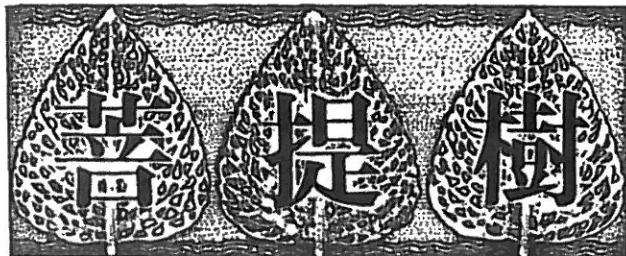


園章デザイン 入間国宝 田村耕一先生

第十六号



発行者／学校法人 春龍愛育会
春竜幼稚園
栃木県佐野市大祝町2312
TEL 0283 (27) 0051
FAX 0283 (27) 0052
E-mail : donryu3@maple.ocn.ne.jp
編集責任者／小林 研介
保護者会広報
題字デザイン／足利短大教授
武井宏允先生
印刷所／荒畑印刷所



正面全景

地震に強い構造、また家具が全部備え付けと「園児の安全」には特に配慮しています。中庭は、レンガが敷き詰められ、四季の花々が楽しめるまさにキンダーガーデン。

多くの木々に囲まれた園庭は倍近く広くなりサッカーに鬼ごっこに体を十分に動かせます。

落成式は創立50周年をかねてこの秋にと考えていますが、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

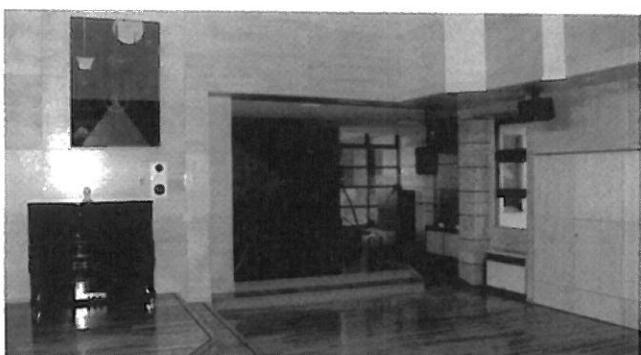
平成14年3月10日春竜幼稚園の新園舎が完成しました。

735m²の2階建ての新園舎には6つの保育室とホール、2階には絵本室とギャラリーまた職員室と相談室があります。また子供の遊びの基地となる暗い穴蔵スベース、暖炉スペース、中2階さらに中3階のコーナーも魅力の場所です。「園舎も遊具」のコンセプトですから、1階も2階もぐるっと回遊てきて、さらに梯子で2階から下に降りられる場所は鬼ごっこに最適でしょう。

地震に強い構造、また家具が全部備え付けと「園児の安全」には特に配慮しています。



中庭で遊ぶ園児



ホールから玄関を望む



年中保育室 中3階



暖炉コーナー

さよなら旧園舎

～香竜の園舎の思い出～



旧うさぎ組

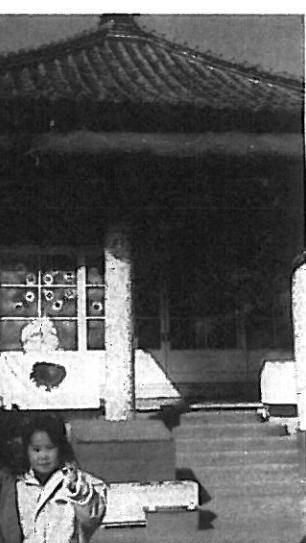
年長保育者 平河内伸子
出入口が階段になっている部屋の子はきちんと順番を守って昇降すること。「一部屋続きの年長さんは、互いを意識しつつもそれぞの領域を侵してはいけないこと。進級する度にその部屋に応じた生活能力が必要であること。又それを自然と身につけていくことは子供の伸びようとする芽を存分に引き出してくれる力を持っていたようにも思っています。

どの部屋にも一つとして同じ作りではない。その部屋でしか味わえないことが一杯あります。次女が卒園して間もなくたんぽ組に階段付きのロフトがあり、親子二代で渡つて同じ園舎誕生しました。それを見て彼女は「いいなあ。いいなあ。」と連発していたのを見てもほつきり覚えています。長男が病気で休みがちだった頃連れて来た息子に教室の窓越しに「しよう

年長・年少・保護者・卒園生 小堀 貞裕
「幼稚園にどこにする?」「もちろん香竜幼稚園だよ」の一言で、我が家のお子供達も香竜園児となり、親子二代で渡つて同じ園舎に入ることになったのです。

一人目の子供が入園し、初めての父の日の運動会。卒園以来約30年ぶりに訪れた幼稚園。當時とほとんど変わらぬ園舎を見

年長・年少・保護者・卒園生 小堀 貞裕
舍となる日が来てしまいました。とても残念!そんな多くの卒園生を送り出した栄光の園舎も新しい園舎となり、これから新たな歴史の一ページが刻まれて行くのだと思います。でも、今まで刻まれた多くの思い出は、いつまでも心中に残っていくことでしょう。園舎よ、多くの思い出をありがとうございます。



旧うさぎ組園舎

卒園生小学一年 菊池 由尚
竹とか、とかげとかいた職員室とかあってよかったです。広くてよかつたです。あそこは広かつたです。いいなあそこはよかったです。

園舎との思い出
保護者・元教諭 藤沼 雅子



旧たんぽ組

私にとって、香竜幼稚園の園舎は一人娘の思い出と職場としての思い出が詰っている所です。そして、まるで迷路のよう

までの園舎が壊されると聞いたとき、私は抹の寂しさを感じました。長い香竜幼稚園の歴史の中で、私が過ごした6年間は

短いのですが、それでもたくさんの方に見せて顶いたけれど、香竜の園舎ほど

一つ一つの部屋に個性があり、

味わい深いものはありませんでした。時には雨漏りしたり、冷たい北風が隙間から入つたり、

老朽化のため廊下に穴があいた

事もありました。その度に修理

をし直した分、愛着がわき、そ

こで過ごした子供との思い出が、

そのまま園舎の歴史となりまし

た。

その園舎が新しくなります。待ちに待った新園舎です。でも淋しい気持ちも一杯です。園舎との最後の日、娘と共に笑顔で感謝の言葉と、お別れを言いました。

本当に長い間、ありがとうございました。

ボジティップ・シンキング

元教諭 天笠 裕子
ある時、新園舎建築のため今

かでこぼこした園舎だな」といふ印象がありました。その通り隣の部屋へは必ず一段は上り下りするのです。その時は特に気にしてはいなかつたのですが、今思ふと子供達にとってアスレ



天笠元教諭親子

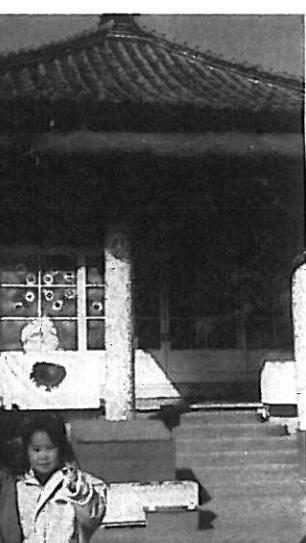
思い出を ありがとう

年長保育者 平河内伸子
出入口が階段になっている部屋の子はきちんと順番を守って昇降すること。「一部屋続きの年長さんは、互いを意識しつつもそれぞの領域を侵してはいけないこと。進級する度にその部屋に応じた生活能力が必要であること。又それを自然と身につけていくことは子供の伸びようとする芽を存分に引き出してくれる力を持っていたようにも思っています。

ちゃんと。しょうちゃんが来た。」と言つて、とんできたお友達。ありがとうございます。なつかしさで一杯です。願わくばこの思い出を旧園舎の「模型」の中にじ込めさせておきたい気分です。

思い出を ありがとう

年長・年少・保護者・卒園生 小堀 貞裕
「幼稚園にどこにする?」「もちろん香竜幼稚園だよ」の一言で、我が家のお子供達も香竜園児となり、親子二代で渡つて同じ園舎に入ることになったのです。



旧たんぽ組園舎

あそんだ おもいで



旧たんぽ組

卒園生小学一年 菊池 由尚
竹とか、とかげとかいた職員室とかあってよかったです。広くてよかつたです。あそこは広かつたです。いいなあそこはよかったです。



旧たんぽ組

チックの様な園舎だったのかなと思います。一部屋ごとに形や大きさも異なるので、その部屋ならではの遊びもありました。部屋を中途半端に占領している柱も上手く利用し、囲ってまとめてコーナーを作ったり、生活の流れをちょっと変えてみたりと考え方次第で表情を変える部屋ばかりでした。

ただ、年代物故の大切さもありました。特に朝、帰りの鍵のが内側でつながっているわけではないので、家の玄関の鍵につづつ閉めるのですが、同じような鍵がいくつもあります。ごとに癖があつたり、となかなか一筋縄ではないかず、「一ヵ所を開めれば全部大丈夫!」そんな園舎がいいな、と何度も思つたことがあります。それに6年間の中で、今でも鮮明に覚えていることがあります。北側の奥まった年少組の部屋で、踊り場の屋根が透明の波板になっていたのですが、前日の激しい風で剥がれてしまつたのです。

室内から見る青空は複雑な気持

ちではありますたが、何とも言えぬ開放感がありました。

乗り合いバス

年中保護者・卒園生

安藤
征幸

私は、春竜幼稚園を卒園して、もう三十六年も経っていますので、記憶も本当にぼろぼろで正確ではないと思います。

しかし、今の人生に影響がないわけではないと思います。寧ろ、人生の基礎工事といえる時期でやり直しがきかない大切な時期だと思います。

私は、春竜幼稚園を卒園して、新園舎の落成おめでとうございます。そして旧園舎お疲れ様

寺という印象が今よりもっと強く、前園長先生が本堂の中で読経している姿をよく見たことを記憶しています。

しかし今年取り壊す園舎は、当時とはほとんど変わりません。

自分の子供達が思い出のある園舎に変わる事は寂しく思います。

旧りす組前



在園児お別れの会



旧年長組前

旧園舎 ありがとう!

元主任教諭 馬場 輝代

新園舎の落成おめでとうございました。そして旧園舎お疲れ様

事でしょう。

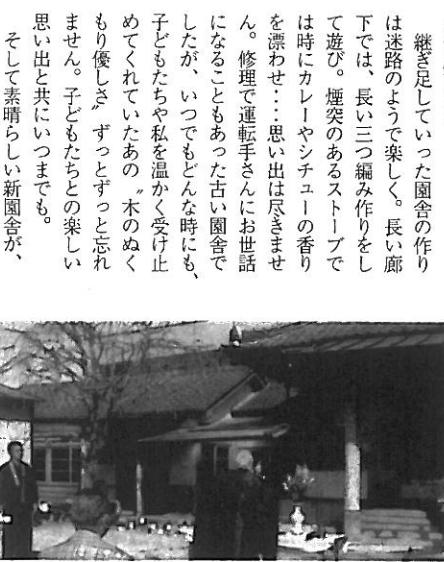
私は、あの園舎に17年程お世話になり、あの場所で良い仕事と素敵な子どもたちやたくさんの人とめぐりあい、元気をもらいました。子どもたちと共に園舎を懐かしく思い出します。



旧年長園舎



旧園舎お別れの会参加者



旧園舎お別れの会

私は春竜幼稚園に年中から入りました。朱雀町に住んでいましたので、バスに乗って通っていました。当時は幼稚園の専用バスがなく、街を循環する乗合バスに乗りました。他の幼稚園の生徒や、一般の社会人の人と一緒で、いろいろな人と出会つて毎日楽しかつたです。幼稚園はお

うことができました。今回、私の故郷とも言える園舎が取り壊され、とても淋しいですが、目を開じると、あの場所での子が泣いた、笑った、喜んだ…子どもたちと共に園舎を懐かしく思い出します。

園舎の中で一際目立つ昔お堂だった部屋。理事長先生は「ここから園をスタートさせたんです」と感慨深そうにお話しします。子どもたちの幸せを願つた思い出の一一杯詰まつた部屋なのでしょう。私もあの部屋は好きでした。高さがあるので子どもたちの登園してくるのが遠くからでも見えました。来た来た!…「おはよう」と大きな声で手を振ると、駆けてくる子どもたち。そんな瞬間が何よりも嬉しかつたのです。子どもたちは時折、靴箱越しに戸外遊びを見ていました。園庭を一望できるので、遊びの情報を得るのに格好の場所だったようです。部屋の柱では、「だけのこ一本ちょうどいな」と遊び、床

下から微かに涼しい風を感じる所を見つけては「何かいいるのかな?」と想像をめぐらせおしゃべりを弾ませた。そんな魅力的な部屋でした。

継ぎ足していく園舎の作りは迷路のようで楽しく。長い廊下では長い三つ編み作りをして遊び。煙突のあるストーブでは時にカレー・やシチューの香りを漂わせ…思い出は尽きません。修理で運転手さんにお世話になることもあつた古い園舎でしたが、いつでもどんな時にも子どもたちや私を温かく受け止めてくれていたあの「木のぬくもり優しさ」ずっとずっと忘れません。子どもたちとの楽しい思い出と共にいつまでも。

そして素晴らしい新園舎が、